

◇この議事速報（未定稿）は、正規の会議録が発行されるまでの間、審議の参考に供するための未定稿版で、一般への公開用ではありません。

◇後刻速記録を調査して処置することとされた発言、理事会で協議することとされた発言等は、原発言のまま掲載しています。

◇今後、訂正、削除が行われる場合がありますので、審議の際の引用に当たっては正規の会議録と受け取られることのないようお願いいたします。

○橋本委員長 次に、長妻昭君。

○長妻委員 まず、加藤大臣にお尋ねをいたします。

加藤大臣がおっしゃっておられるのが、旧統一教会の関連団体の懇親会に何回か会費をお支払いになった、こういう話なんです。これは旧統一教会の関連団体と分かった上での話なのかどうかというのが一点と、二点目としては、これ以外、旧統一教会の関連団体との何らかの接触というのはほかにあったんでしょうか。

○加藤国務大臣 まず、関連団体とおっしゃったのは、世界平和女性連合という会合が開かれて、その後、多分、懇親会、懇親会の経費として支払ったということでありますから、そういう形で会費をさせていただきました。秘書は会費を持参しただ、その会には参加していなかったということでございます。

ちよつと、事務所の判断なんです。その段階でどこまで旧統一教会との関係を意識していたの

か、必ずしも定かではありませんが、基本的に、この会合に関しても、地元の、たしか、支援者の方から、出席をしてほしい、こういう声かけがあったことを踏まえて、そうした判断に至ったものと承知しております。

なお、そのような懇親会は二回、二〇一四年の三月と二〇一六年の三月にそうした懇親会があり、今申し上げたような対応をさせていただきました。

それ以外については、二〇一八年の七月、岡山市内で、復興祈念二〇一八年孝情文化ピースフェスティバル・イン岡山という、主催したのは同フェスティバル実行委員会ということでありますが、これについても祝電を送り、秘書が代理の出席をしたということでございます。これに関しても、どこまでちよつと、その統一教会との認識をしていたのかどうかというのは、正直言って、今の段階では把握できておりませんが、ただ、いずれにしても、これも先ほど申し上げたように、支援をされる方からお声かけがあり、それで事務所として判断して出席したということではございます。

ただ、こうした対応について今いろいろ御指摘もいただいているところでございますので、今後についてはこうした対応を行っていかないというのを先日の記者会見で申し上げたということでございます。

○長妻委員 自分は統一教会関連とは知らなかったということなんです。本当かなと思っております。次に、コロナ対策についてお伺いしますが、やはり全数把握の簡略化は至急やっていただきたいんです。もうすぐに、来週にでも。遅いんです

ね。

やはり、開業医の方から相当私も意見を聞いています。例えば、家族全員が感染しても、一人ずつ、住所とか発生日時とか場所とか、全部一つずつ入れる、例えば軽症者で、あるいは全く若くて症状がない方も一律に入れる、これはたまたぬ、おかしんじゃないか、早く直せと。これは正論だと思っております。

ただ、お伺いしたいのは、注意しなきゃいけないのは、今、何か定点観測、インフルエンザと同じような、そういう議論があると聞いていますけれども、こういうふうにしてしまうと、定点観測から漏れたところについては重症者のHERYSYS入力がなくなくなっちゃって、私は、医療ケアが届かなくて自宅死が増えると思うんですよ。そういうようなことを鑑みて、重症者や基礎疾患がある方の入力は、これははしらないよ、やめないよというようなことはちよつと明言していただきたいんですが、いかがですか。

○加藤国務大臣 全数把握の議論に関して、なぜ全数把握しているかというのは二つあると思います。一つは、感染状況そのものをしっかりと把握するということと、もう一つは、今御指摘があるように、個々の患者さんをしっかりフォローアップしていくというこの二つなんだと思います。

今回、他方で、今御指摘のように、特に外来のところから、大変入力が大変だ、診療が終わった後、深夜にわたって入力を毎日しなきゃならないという声、私も頂戴をさせていただいていますので、是非そういう負担は減少しながら、ただ、こ

の全数把握によって持たされた目的、機能があるわけですから、それをどういう形で残していくのか。

この辺については、よく、昨日も専門家、AD Bから様々な、専門家の皆さんからも御議論をいただき、その前も、専門家や医療現場の皆さん方からもお話をいただいていますので、しっかりと話を聞きながら。ただ、委員おっしゃるように、現状、こういう状況ですから、できるだけ速やかな対応ができるようにしていきたいというふうに思っております。

○長妻委員 これは年初からやっているわけですよ、議論を。昨日過去最多になったわけですよ、感染者数が。四週連続世界一ですよ、日本の感染者数。是非、遅くとも今月中にはやると明言していただきたい。

○加藤国務大臣 どういうタイミングでやるかについては、まさに中身も議論しなければなりません。昨日も専門家から、よく我々とも相談をしておいてほしいということも言われておりますから、そういう手続も得ながら。ただ、今委員おっしゃるように、まさに今その軽減が求められていること、このことはしっかりと踏まえて対応していきたいと思えます。

○長妻委員 そして、私は、政府、閣僚の皆さん岸田内閣、危機感が薄いと思うんですね。トリプルワースト、三つのワーストがありまして、先ほど申し上げた、新規感染者数が過去最多。そして、死者の数も過去最多になりました。世界でも米国に次いで二位になりました、死者数が。そし

て、高齢者施設のクラスター、五人以上が、これも過去最多になりました、直近一週間。こういう多分、政府が想定していない状況が今起こっている中で、非常に危機感が足りないと思うんですね。

その最たるものが、やはり、全国の医療資源を適正配分する司令塔機能、これを私たちはずっと以前から、司令塔機能を首相官邸に設置してくださいと何度も申し上げているんですが、結局、昨日も、お話を質問レクで聞くと、司令塔機能はいつできるか分からない、紙には書いたけれども、いつできるか分からないという回答だったんですが、大臣、ここで、大臣からトップダウンで、司令塔機能をすぐやると、例えば、もう今月とか来月とか実行すると。いつ頃実行するんですか、大臣。

○加藤国務大臣 おっしゃる司令塔機能は政府全体の話だと思いますので、まさに政府の中において、現在、方向性は出しているわけですね。六月十七日の政府対策本部決定で、次の感染症危機に対する政府の司令塔機能の強化の一環として対応していくということになっているわけでありまして、詳細については、私ども厚労省だけじゃなくて、政府全体の中で相談しながら成案を得て、これは法律等も必要になってまいりますから、必要な法律案を国会に提出していきたいというふうに考えております。

○長妻委員 これは、法律がなくてもできることというのはたくさんあるわけですよ。首相官邸に病院関係の団体を集めてお願いますとか、全国で、ある程度医療資源が厚いところはオンラインでそ

うでないところを診ていただくとか、ベッドを広域的に探すとか。東京都などは、都内で一生懸命探しているんですよ。近隣県も含めて、今、神奈川県も大変なことになっていますから。こういうことで本当にずっと議論しているじゃないですか、いろいろなことを。決断していただきたいということ強く申し上げまして、私の質問といたしま

す。
ありがとうございます。